

研修会のお知らせ  
26ページ参照

平成12年6月8日 第三種郵便物認可（毎月1日発行） 平成26年8月1日発行

2014.8  
(公社)富山県薬剤師会  
広報誌

# とみやく

8号

第36巻  
No.301



センニンソウ *Clematis terniflora* DC. (キンボウゲ科 *Ranunculaceae*)

**生薬** センニンウ（仙人掌） 夏から秋にかけての葉を生のまま用いる。

**成分** protoanemonin, hederagenin, oleanolic acid

**効能** 民間薬。扁桃炎に生薬を揉んで手首の内側に5分ほど貼ると痛みを感じるようになり、扁桃腺の痛みも取れる。貼った部分は発疱して赤くなっているので温水で洗う。神経痛やリウマチの痛みを生薬をそのまま患部に一昼夜貼る。

生薬 センニンソウ

元富山県薬事研究所  
薬用植物指導センター

村上守一氏 写真撮影

## 〇〇表紙について〇〇



*Clematis*はギリシャ語の葡萄のつるを意味する *klema*に由来すると言われ、長く柔らかい枝を持った蔓性の植物で、長い葉柄や小葉柄を他物に絡ませてよじ登るセンニンソウ属の特徴をよく表しています。世界に約300種が知られており、日本にも20種程があり、萼片が立って筒状または鐘状の花となり、下向きに咲き、花卉が無いクサボタン節 (sect. *Viorna*) や属中でただ一種花卉があるミヤマハンショウヅル節 (sect. *Atragene*)、花は枝先または葉腋に単性し、萼片は平開、輻状の花が上向きに咲き、花径は5~15cmと大きいカザグルマ節 (sect. *Viticella*)、花は1~2.5cmと小さく、葉腋に1~3個、または円錐花序に多数付けるセンニンソウ節 (sect. *Flammula*) 等に分け

られています。

葉を外用に用いる方法は日本独特の使い方である飯沼慾齋(1782-1865)は『本草図説・木部』の中で「原野に多き蔓草にして、衆よく通知し、往々以て外伝し泡を發して諸患を治すことあるものなり……」と記しています。また根は威靈仙の名でリウマチや痛風などによる関節痛や筋肉痛、手足のしびれ、脳卒中の後遺症の半身不随に用いています。しかし地域によってその原植物は異なり、日本ではセンニンソウを和威靈仙として用いています。

属名の *Clematis* より園芸名のクレマチスの名が良く知られています。ここで少し横道に外れますが、園芸品種のクレマチスについて少々述べてみたいと思います。クレマチスと呼ばれる代表的な植物は本州以南や朝鮮半島とそれに接する満州地帯に自生し、大型の花を咲かすカザグルマ節のカザグルマ (*C. patena*) と中国広西チワン族自治区、広東、湖南、江西省に自生し、17世紀には日本に渡来していたといわれるテッセン (*C. florida*) が江戸時代中期に絵画に招かれ、花被片6個のテッセンと8個のカザグルマが書き分けられていたことや、白、桃、濃紫の花色や花卉の大小、八重咲き種があったことから世界で初めて園芸種が作られていたものと推測されています。一方ヨーロッパでは16世紀にはカザグルマ節で地中海沿岸および中近東原産の *C. viticella* が北方に広がって栽培されていましたが、本格的な育種は19世紀になってからで、上記3種に加えて中国浙江省原産の *C. lanuginosata* がイギリスに移入され、*C. × jacksonii* などこれらの種間雑種が生まれ、より多くの品種が作られました。日本の栽培熱は明治時代に入ると醒めて行き、多くの品種が失われましたが、大正時代にヨーロッパ産園芸品種が導入されると再びブームが訪れ、多くの品種が生み出され栽培されるようになりました。現在ではクサボタン節やセンニンソウ節の植物とも交配され、より一層多様になっているようです。(村上守一 記)